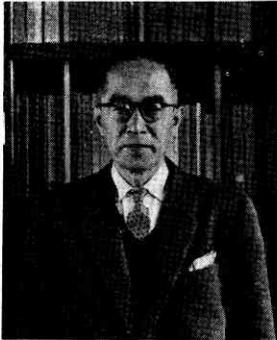


卷 頭 言

所 長 就 任 挨 拶

福 田 武 雄



福 田 所 長

このたび私が谷教授の後をうけて当研究所の所長に選任されましたことにつきましては、いち早く各新聞に報道されまして少なからず面くらいました。このことは、糸川教授らのロケットの研究などによって、新聞が、したがって世間一般が、われわれの研究所に注視の眼を向けているためと思います。われわれの研究所は今年でちょうど設立 10 年になります。その間、たとえば、観測ロケットの研究はもちろんのこと、瀬藤先生から谷教授に引継がれました電子顕微鏡の研究、金森教授の酸素製鉄法、鈴木教授の逆張力伸線機、丸安教授の写真測量に関する研究、加藤助教授の放射性同位元素の工学的利用に関する研究など“生研リーフレット”で紹介されていますような、わが国の産業の進展に寄与するいろいろな数多くの研究がなされてきました。

それにもかかわらず、設立当初はもちろんのこと、現在でもなお、君の研究所は何を目標として研究する所か、いったい何を研究しているのか？ という質問をたびたび受けます。これは一つには、われわれの研究所に冠せられています“生産技術”という用語に基因するのではないかと思われます。一口に“生産”といいましても、農業や水産なども生産であります。われわれが現在やっておりますことは、主として、工業に関するものであります。研究所の設立当時、研究所の名前をどうするかにつきまして多くの議論がたたかわされたのであります。いろいろな情勢と理由とから現在の名前に落付いたわけであります。しかし、私個人としましては、当研究所の英文名の“*Institute of Industrial Science*”，直訳すると“工業科学研究所”の方が、何だかぴったりするような気がします。あるいは“工業技術研究所”でもよいかも知れません。いずれにしましても、われわれの研究所の研究目標が比較的狭い一定の分野に限定されず、毛色のちがった広範囲にわたるいろいろな研究が行なわれていますため、一見したところ雑然としており、研究所全体としてまとまった研究をなし得ないのではないかというような非難も受けるのであります。しかしじっさいは、われわれの研究所において広範囲の各種の専門分野の研究が行なわれていますことそのことが、比較的狭い範囲の分野を研究目標とする他の研究所にくらべて、われわれの研究所の特長とするところであり、また、このことのおかげで、他の研究所ではやれないような研究が行なわれましたし、また、今後も行なわれるだろうと確信します。たとえば観測ロケットの研究につきましても、私自身は門外漢であります。空力学的問題のほか、材料・推進火薬・通信計器・測定計器・観測・打上げ施設など各種の分野にわたる研究が総合されてはじめて実を結ぶものであります。しかし、このような共同的総合研究が本当に実を結ぶには、各研究者がセクショナリズムの殻を破って、密接に協力しなければならぬことは、いうまでもありません。さいわいに、私の見ますところでは、当研究所ではこの横の連絡、各分野間の協力態勢がかなりうまくいっているようで、よろこびにたえません。今後は、この態勢をますます固め、広い範囲にわたるいろいろな研究分野をもっているというわれわれの研究所の強みをますます強め、わが国の工業や産業の進展に寄与する研究成果を挙げまして、われわれの研究所にたいする世間の期待にこたえたいと思います。

(1958. 4. 1)